

ヨリ出ルモノ同物ナリ、根ノ形チ岐少クシテ、羌活根ウダタラシノゴトシ、馬尾ノ形チヲナサズ、潤ナク味ヒ、辛クシテ氣烈シ、藥用ニ良ナラズ、ソノ苗葉花實ハ二州ニ栽ルモノト同シテ、只莖ノ色青ヲ帶ブ、集解ニ謂トコロノ錢頭歸是ナリ、

〔農業全書藥種之類〕當歸

當歸は種子を取置事、去年の苗をうへ付にして、當年花咲子をむすびて、秋よく熟したるを收め置べし、又は去年のかぶを移しうへて、たねを取もくるしからず、其畠肥地ならば、糞を用るに及ばず、瘠地ならば見合せ、過ぎるほどをはかりて、糞を入れし、莖あかく實の所も色付たる時、取てもみ、糞を簸去りて袋に入れ、つり置べし、青く不熟なるは、少も交をくべからず、早くたう立て根に入ず、苗地は寒耕し、いか程も細かにこなし、さらし置、是又瘠地ならば寒中、糞をうちたるよし、畦作り、菜園に同じ、種子を下す時分は、正月中を定る時とするなり、若寒氣つよくば、二月早く蒔べし、をそきは宜しからず、生て後草あらば去べし、萬の手入、菜の苗の仕立にかはる事なし、移しうゆる地は、いかに性よき細沙の交りて、少はねばり心もある牛蒡など作るやうの、つまりたる肥地よし、明る二月移しうゆる物なり、畦作り、麥を蒔うねのごとくすべし、がんぎを一尺ばかり間をきてきり、ならび五六寸に一本づ、うゆべし、先苗をほりおこし、うゆる所に、杖のさきにて深く穴をつき、一本づ、さし入れ、根さきの底につかへぬ程に、ふかくさすべし、さし入れて穴の廻りくつろぎあらば、是又杖のさきにてつきうづむべし、苗の大小をゑり分、一畦の中、大小なく、そろひたるをうゆべし、こやしを入る事、當歸は五月と八月と二ヶ月、取分よくふとりさかゆる物なるゆへ、此時にき、わたる心得して、前方より時分をはかり、糞を多くかくべし、五月は梅雨の後よし、尤五月のみにかぎらず、さいくこゑを用ゆる物なれど、此時殊によき糞を多く用ゆべし、糞は何にてもよし、人糞、ほどろ、鱒、油糟などは取分よし、中うち、草かじめ、さいくすべ